

《沢田地区自治協議会からのお知らせ》

国の補助決定

新聞でも報道されましたが、旧沢田中学校の改修が小さな拠点施設整備事業として国の地方創生拠点整備交付金の対象として認められました。

事業費1億4千万円に対して、補助金は7千万円です。

これで平成29年度中の工事に向けて大きく前進したものと思われます。

なお、「小さな拠点」とは中山間地域等において、将来にわたり地域住民が暮していけるようにと国が進めている地域づくりの施策です。

自治協議会はその運営の中心となる組織です。

子安地藏尊堂再建

下沢井の宝海寺隣にある子安地藏尊堂がこの度再建され、2月19日に「入魂式」が行われました。(右写真)

伝承によりますと、子安地藏尊は明和年間(1764~1771)に小金石に造られたとのことです。

度々の水害のため、昭和25年現在地に移され、昭和38年に堂が建てられました。

時間の経過とともに、老朽化が進み数年前から倒壊寸前の状態でありました。

郷土に残る貴重な文化遺産を後世に引き継ぐため、地元の有志が再建に乗り出し地域の方々の協力をいただき実現したものです。



【3月の行事予定】

(2月23日現在)

日	曜	行事名	日	曜	行事名
1	水	民生児童委員方部会 9:30 太極拳愛好会 13:30	15	水	太極拳愛好会
2	木	石陽吟詠会 19:00 中央区役員会 19:00	16	木	石陽吟詠会
6	月	ヨガ愛好会 19:15	18	土	沢田ミニバス 13:00
7	火	書道教室A 13:30	21	火	書道教室A
8	水	太極拳愛好会	22	水	太極拳愛好会
9	木	長寿会役員会 10:00 石陽吟詠会 婦人会役員会 19:00	23	木	石陽吟詠会
10	金	白鳥の会事前会議 (2班)	25	土	赤羽新屋敷土地改良区総会 13:00
13	月	ヨガ愛好会	26	日	沢井三里区総会 13:30
14	火	白鳥の会 9:00 書道教室 B13:30 華の会 19:00	27	月	沢田児童館 12:00 ヨガ愛好会
			28	火	あぶくま句会 13:00 書道教室 B15:00

今回は沢田郷土読本より次の2編をとりあげました。

お寺詣り《宝海寺》

根宿から可なり急な坂を上って行くと、やがて宝海寺に着く。

慈光山宝海寺と刻した石門が立ててある。

眼鏡をかけた住持に導かれて、本堂に礼拝して顔をあげて、本尊を仰ぐと正面には不動明王が火災を負うて、片手に降魔の利剣を片手に縄、悪魔退散せよとばかり恐ろしい形相だ。

その両方に脇立として四体の仏像がある。これが有名な四天明王である。

いずれも甲冑に身をかためていかめしい姿である。

老僧のお話によると、四天王というのは、持国天、増長天、広目天、多聞天という4人の仏様で、東西南北の守護神なそうだ。

この寺は、2、30年間住職が居なかったために、種々の記録が紛失したのは惜しいことをしたものである。

ようやく次のことを調べた。

この寺はもと、天正元年といえば、今から360年前だが、石城郡の田場坂宝海寺の閑居寺として僧祐順の開基したものだそうである。

本山は、京都の知積院で、真言宗の新義派に属する。

四天王様の祭と言え、今から10年ばかり前迄は、旧7月24日は非常に賑ったもので、角力やら、櫓やらで、夜も昼も大変な人出のものであった。

今では昔のような賑わしさが無いのは、誠に惜しい事である。

こんな行事は、何時までも残して置きたいものだ。

お寺詣り《安養寺》

狭い石段を登る。

両側には古い杉が行儀よく並んでいる。

山門をくぐると、真正面に養壽山とかいた大きな額がかかげられて、村の寺には珍しい程整った本堂が見える。

厨の戸は閉じてある。人一人居そうにない。猫は縁側の日向で居眠りしている。

静かで、そうして平和だ。

声をかけると、猫が驚いて逃げる。若い坊さんが出てくる。

住職の話によると、この寺は第56代清和天皇の貞観15年慈覚大師が開基されたものだとのことである。(今から1701年前)

その当時は観行院といって、寺内に五大尊明王のお姿を奉安して諸病駆除、国家安泰を祈ったのである。

その後度々の火災にあって、一度は向側に移転したこともあったが現在の本堂は大正7年に出来たものである。

この寺に安置されている五大尊に対する地方民の信仰は非常なもので、厄病が流行するところにお詣りしてその平癒を祈るものが後を絶たないという風である。

陰暦の6月27日の宵祭の夜には、もとは近所の村から青年たちが集まって、よく太鼓をならして、その音のよいのを争ったものであるが、この頃は、この風習は衰えてきたが、それでもその人出は田舎には珍しいものである。

これ等の人を目あてに夜店もはられる。青葉の下に暗いランプや、白いアセチリン灯などの光っているのも忘れることが出来ない。

こうして集まった人たちは、この夏の一夜をおどりあかすのである。

この日は、村の人たちにとっては、村祭におとらない楽しい時なのである。

私たちの村に対するなつかしみは、こんなことから生れるのである。

養壽山の額は、東叡山千妙寺の僧正真の筆になるものだ。天台宗の寺である。